

令和4年度 日本橋中学校 自己評価報告書	
学校名：中央区立日本橋中学校	所在地：東京都中央区東日本橋1-10-1
校長名：平野 雅仁	生徒数398 学級数12 教員数22 職員数27
1 重点目標の達成状況及び取組状況	
重点目標1 「確かな学力の定着と向上」	
評価指標① 「『わかった』『できた』の楽しさを感じながら、主体的に学び、問題を解決する力を付けさせているか」	
→ 肯定的な回答 生徒89% 保護者78% 教員100%	
評価指標② 「基礎的・基本的な学力を身に付けさせているか」	
→ 肯定的な回答 生徒89% 保護者79% 教員100%	
<p>「わかった」「できた」という実感を約90%の生徒がもつことができおり、保護者の方の肯定的な回答の割合を昨年度より伸ばすことができた。(①が2.5%上昇 ②が4.4%上昇)3年間の研究で深めた問題解決型学習「主体的対話的な深い学び」から、生徒一人一人の学力の定着を確実にしていくことを今後の課題としていく。評価指標①の生徒の肯定的な回答が、昨年度より-2.6%となった。このことについて分析をすると、「話し合い活動を推進してきたが、必ず振り返りや学ぶべきポイントを押さえて、子供たちの「わかった」「できた」を定着させる振り返りが一部の教科で弱かったことが考えられる。「話し合い活動」を、活動のみで終わらせるのではなく、「深まったことを必ず授業内で押さえ、振り返ること」を課題にする。今後は授業内で得た深い学びを、定着させるための家庭での学習は推進し、来年度は中央区として導入されるAIが搭載されたドリル教材アプリ「Qubena」を活用し、タブレットの有効活用のもと、個別最適な学習を展開し、学力の定着をさらに深めていく。</p>	
重点目標2 「豊かな人間性の育成」	
評価指標① 「道徳や話し合い活動や命と心の授業等の機会を通して、多様な価値や生命の大切さ考えさせることができているか。」	
→ 肯定的な回答 生徒95.5% 保護者93.8% 教員100%	
評価指標② 「・・・委員会活動等を通して、社会貢献やボランティア精神の育成を図る。」	
→ 肯定的な回答 生徒89.3% 保護者91.1% 教員95%	
<p>研究に取り組んだ結果、道徳においても、教員の肯定的な回答が100%になり、多様な価値や生命の大切さを考えさせる展開が充実してきていることがうかがえる。これに伴い、保護者の方の肯定的な回答が8.3%上昇した。また、社会貢献やボランティア精神の育成は、感染状況の収束化傾向に伴い、様々な活動を展開できるようになり、生徒の肯定的な意見は約10%高まり、保護者の方の肯定的な回答も、4.8%上昇した。</p>	
重点目標3 「心身の健康の増進」	
評価指標① 「日本橋中学校では、学習発表(運動の部)等を通して、運動への興味・関心を高め、健康の保持・増進を図ることができていますか。」	
→ 肯定的な回答 生徒83.9% 保護者88.3% 教員70%	

評価指標②「職業調べ、進路説明会、未来につなぐ生き方講演会等を通して、自らの生き方や将来を考える機会となっているか。」

→肯定的な回答 生徒 87.4% 保護者 85.2%

教員 測定不能（誤記があったため、測定不能）

ほぼ通常に近い形で「学習発表運動の部」を実施することができ、多くの子供たちから充実感や達成感を感じていることがうかがえた。評価指標①に関しての教員の肯定的意見の数値は、質問のあり方として、学習発表運動の部が、質問の後半の「健康の保持・増進を図ることができているか。」という点で疑問が残ったものと思われる。来年度はもう少し回答しやすいものに、質問項目を再検討する必要がある。

オリンピックの機運を維持した「学校 2020 レガシー」の取組に関しては、依然コロナ禍が影響し、国際交流、大使館との交流などには至らない現状があった。

自らの生き方を深める「未来につなぐ生き方講演会」を行うことができたが、今年度のテーマが「宇宙」で、実質的に「自らの生き方や将来を考える機会」に結び付けるという点では、少し難しかったように感じている。自らの生き方や将来を考える機会を設けるキャリア教育としては、職場体験学習は、残念ながら今年度も中止となった。来年度は、職場体験学習を復活させ、生徒たちが体験的な学習の中で、自らの生き方を考える「キャリア教育の充実」を図っていきたいと考える。

2 重点目標以外の自己評価における達成状況及び達成のための取組状況

保護者の評価で肯定的評価の割合が 80%を超えた項目（20 項目中 12 項目）

- ① 学校は、生徒の努力を認め励まし温かく接している。(85.9%)
- ② 生徒は明るく生き生きと生活している。(88.6%)
- ③ 生徒の健康・体力の増進に努めている。(81.4%)
- ④ 規範意識が高く、思いやりの心が育っている。(89.3%)
- ⑤ 人権を尊重する姿勢で指導している。(85.8%)
- ⑥ 保護者にとって連絡や相談がしやすく適切に対応している。(88.7%)
- ⑦ 地域や家庭との連携や協力体制を十分にとり、地域の学校として機能している。
- ⑧ 安全対策に様々な配慮を行っている。(84.8%)
- ⑨ 学校行事を通して学習の様子や生活がわかるようにしている。(91.3%)
- ⑩ 保護者に出す文章や連絡等はわかりやすく適切である。(90%)
- ⑪ 保護者が教育活動（面談、行事）に参加しやすいように工夫している。(86.2%)
- ⑫ 保護者に対する言葉遣いや対応は親切丁寧である。(96.5%)

保護者の評価で肯定的評価の割合が 80%を満たなかった項目（20 項目中 7 項目）

- ① 学習内容がわかりやすく工夫された授業をしている。(75.5% 昨年度比+6%)
- ② 通知表等を通して観点別評価により適切に評価をしている。(76.6%昨年度比-5.3%)
- ③ 個に応じた指導を行い、生徒に基礎学力が身に付くように教えている。(69.0% 昨年度比+1.9%)
- ④ 生徒は地域の行事やボランティア活動に進んで参加している。(65.5% 昨年度比+17.7%)
- ⑤ 生徒の問題や悩みに、トラブルなどを見逃さずに相談にのり指導している。(75.2% 昨

年度比+3.7%)

- ⑥ タブレットを充分活用している。(76.9% 昨年度比+8.6%)
- ⑦ 図書館や蔵書の充実に努めている。(63.1% 昨年度比+11.3%)
- ⑧ 保護者は学校の教育活動に積極的に関わっている。(68.3% 昨年度比+6.46%)

②以外は80%に満たないものの、昨年度よりプラスに転じている。②の項目については、生徒たちには、授業の中で、どのように評価しているかということを説明しているが、保護者の方に年度当初示す必要があると考え、改善が必要と考えた。来年度の年度当初の保護者会で説明をすることとし、適切な評価と共に、評価においても信頼されることを目指していきたい。

3 今後の改善方策

(1) 学校評価の在り方の改善

- ・今年度も、保護者に ICT を活用して回答をお願いしました。昨年度初めての取組であったため、回答状況が10%ほど減少したため、今年度は昨年の反省を踏まえ、WEB上で回答を終了したことを伝える確認書を提出することで、回答の呼びかけを行い、回答率を上げることができました。今後も学校評価の意義を適切に理解していただくよう働きかけていきたいと考えています。

(2) 問題解決型学習実践、ICTを活用した基礎・基本の定着、学力の向上

- ・研究の成果であった、日本橋中学校の「話し合い活動」を展開し、子どもたちが「わかった」「できた」という楽しさを感じながら、主体的に学び、問題解決する力を身に付けさせ、子供たちの「深い学び」に今後もつなげていきたいと考えています。また、それらを学力の向上につなげていくために、タブレットを有効活用し、個別最適な学びを展開し、基礎・基本の学力の定着を図っていきたいと考えています。

(3) 「自己肯定感」「自己指導能力」を高め、生きる力を育む

- ・学習以外にも学校行事、部活動において、生徒の一人一人の努力を認め、励まし、温かく接していくことを目指し、生徒の意欲や自己肯定感をより高めていきたいと考えています。その中で、生徒自らが考え、自分を律する「自己指導能力」を育て、「生きる力」を育てていきたいと思えます。

(4) キャリア教育の充実

- ・3年間を見通したキャリア教育の充実を推進し、自己理解を深め、自らの生き方を見つめ、持続可能な社会の未来の担い手としての教育を展開して参ります。